

潜入！ IGLセントラルキッチン

IGL各施設の利用者様へお食事が届くまでをレポート！

IGLの食事は美味しいね～！

IGLの食事が美味しい理由！



最新鋭 連続フライヤー こだわりの調味料 圧力鍋俱全
IGLセントラルキッチンでは最新鋭の機材で毎日4,000食以上を作っています。

スタート!!



- 1 作業前の準備**
調理員はエアシャワーで全身のホコリやごみを取り除き衛生対策を徹底しています。
- 2 食材の検収**
業者さんが食材を保管庫に納品します。
- 3 下処理**
食材をひとつひとつ目視で確認しながら丁寧にカットします。
- 4 洗浄、下ゆで**
水を電気分解した酸性水で、下ごしらえした野菜を洗浄します。



ゴール!!



- 5 真空包装**
真空調理をするための下準備です。レシピ通りに調味料を配合し、食材と混ぜます。
- 6 加熱調理**
真空パックを加熱調理します！
- 7 急速冷却**
真空調理されたパックは食材を安全に保ち、風味を逃さないよう急速に冷却します。
- 8 チルド保存**
施設ごとに仕分けしたパックを出荷まで保管します。
- 9 各施設へ出荷!**
- 10 配膳**
施設ご利用者様や園児の皆様のお食事に合わせたお食事をお届けしています！

IGLのクリスマス会

12月23日にリーガロイヤルホテル広島にて

コロナ禍により自粛しておりましたIGLのクリスマス会を、4年ぶりに開催しました。当日は、広島市内の小中高生でつくる広島ジュニアマリンバアンサンブルによる演奏が披露されました。高齢施設、医療関係施設におきましては感染予防の観点から今年は参加を見合わせました。



理事長の挨拶 広島ジュニアマリンバアンサンブルの演奏 サムエル信愛の保育教諭によるトーンチャイムの演奏



教えて！
ドクター!
知っておくと役に立つ情報を発信!

【フッ素配合歯みがき剤の使い方ガイド nico5月号より】

歯科クリニックエーデルワイス
歯科医師 深野木 豊先生



ほとんどの人が1日2回の歯みがきをしています。しかし成人の9割以上がむし歯を経験。なぜむし歯を防げないのでしょうか。一般的には歯ブラシの毛の太さは、直径200マイクロメートルです。ところがむし歯は、もっと小さいところから発生します。しかも、むし歯になりやすい場所は、「奥歯の溝」「歯と歯のあいだ」「歯と歯ぐきの境目」。つまり、みがきにくく、毛先が届きにくいところです。キレイにしているつもりでも、汚れを除去できていなかったりするのです。そこで使いたいの、むし歯を予防するフッ素配合歯みがき剤なのです。最新情報に即した使い方、より効果を発揮させるための使い方をご紹介します。

フッ素配合歯みがき剤を
歯医者さんがすすめる理由

効果を出したいなら、こう使う!

- 1 むし歯の予防**
フッ素配合歯みがき剤をしっかりと届けること
- 2 歯周病の予防**
歯と歯ぐきの境目のプラークをしっかりと落とすこと
- 1 1日2回は歯みがきを。そのうち1回は就寝前に**
- 2 まずは歯ブラシを軽く湿らせて**
- 3 最初は、奥歯などのむし歯リスクの高いところから**
- 4 歯と歯のあいだは、歯ブラシをやや傾けて**
- 5 歯みがき時間は2分程度**
- 6 歯みがき後のすすぎは、少量の水で最小限に**

教会から「愛の手紙」

救い主の生誕地ベツレヘムは今

広島福音教会牧師 加藤 望先生



救い主イエスキリストの生誕地ベツレヘム。それはユダヤの国の小さな村でした。昔、名君ダビデ王が生まれた村として知られていましたが、麦の穂が揺れ、多くの羊たちが草を食む牧歌的風景が似合う田舎の村でした。預言者たちは、このベツレヘムこそ救い主キリスト誕生の地との預言を残してきました。けれどもイエスキリストがお生まれになった当時、古い預言のことは忘れられ、王をはじめ国中の人たちはだれ一人救い主誕生のことなど知りませんでした。

ベツレヘム村の宿屋の入り口にあった家畜小屋、そこでイエスキリストはお生まれになりました。両親のヨセフとマリアが住民登録のため、北のナザレの村から、南の故郷ベツレヘム村まで旅をしなければならなかったのです。客間はどこもいっぱい、まして身重のマリアを見た宿屋の主人たちは、きつと面倒を避けるために中に入らなかったのでしょう。唯一空いていたのは家畜小屋だけでした。旅を共にしたロバをつなぎ、干し草を食べさせ、そこで一緒に横になったのです。その夜、赤ちゃんイエスキリストが誕生しました。ベツレヘム村の家畜小屋で!最初の寝床は石を削って造られた飼葉桶の藁の床。神の御子、救い主イエスキリストがお生まれになったのに…。父なる神さまが、愛をもって送ってくださった御子イエスキリストを、だれひとり知らず、歓迎しなかったのです。歓迎したのは、天使のお告げを聞いて駆け付けたベツレヘムの貧しい羊飼いたちでした。彼らはテント生活。住所不定で住民登録の対

象外。おまけに文明社会からは「アム・ハー・アーレツ（土人）」と呼ばれて差別されていました。羊飼いたちは、天使のお告げ通りに飼葉桶に寝かされた赤ちゃんイエスキリストを見て、「ああ、救い主はわしらのこどもと同じだ。飼葉桶が寝床じゃ」と喜びました。

ユダヤの国に救い主誕生の「しるしの星」を見つけた東国の博士たちも歓迎しました。彼らは最初に王宮を訪ねたのですが、そこに救い主はいませんでした。星に導かれた博士たちはベツレヘムの一軒家に着いて、母マリアに抱かれた赤ちゃんイエスキリストを礼拝しました。ユダヤの国の人たちからは見下され、差別されていた異教徒です!それなのに父なる神さまは、異教徒の博士たちが救い主イエスキリストを拝むことを喜んでお許しになりました。しかし、ユダヤの国の王ヘロデは、自分の地位を脅かす救い主を亡き者にしようと、ベツレヘム近辺の2歳以下の男の子を皆殺しにする命令を出したのです。何と恐ろしいことでしょう。

今日、キリスト生誕の地ベツレヘムはパレスチナ自治区にあります。ハマスとイスラエルの戦争で誰も訪れることができなくなっています。パレスチナの、そしてイスラエルの子どもたちの命が、ユダヤの地で奪われています。再び憎しみに満ちたヘロデ王の悪夢が繰り返されているのです。「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」（マタイ5章44節）。平和の君として来られたイエスキリストの教えです。救い主イエスキリストを歓迎して心に迎え、この教えに従う者たちが一人でも多く起こされ、イスラエルとパレスチナの間に平和が実現しますように!

